

(13)『高山在番等覚書二種』による高山の人口

文献所蔵 金沢市近世資料館

第 11 図には商人町を中心に家数の概要が記されているが、高山在番記（註 9）には詳細なる町の様子が記録されている。

金沢に残る多くの高山在番記の中で、『高山在番等覚書 全』（註 10）の記述が一番詳しいので、人口等を以下に紹介する。

（註 9）（14）表 2 に加越能文庫所収の高山在番、廃城の関係文書の一覧表を掲載している。

（註 10）金沢市立近世資料館蔵、「加越能文庫」『高山在番等覚書二種』

A 〈侍屋敷〉

一、弐拾軒	大洞口	一、拾弐軒	栗戸ノ内
一、廿四軒	草場	一、弐軒	文右衛門坂左右
一、壱軒	佐房坂ノ上	一、廿五軒	表町
一、五軒	大隆寺下町	一、三軒	後町
一、弐軒	鉄砲町	一、壱軒	宗猷寺ノ下
一、弐軒	法花寺ノ下	一、弐軒	大雄寺ノ下
一、四軒	雲龍寺ノ下	一、弐軒	八幡町
一、四軒	向町	一、壱軒	八間町

〆百拾三軒

B 〈扶持人家屋敷〉

一、九軒	大隆寺ノ下	一、九軒	裏町
一、八軒	錦橋	一、三拾軒	宗猷寺脇共ニ
一、拾壱軒	天照寺下	一、三軒	大雄寺下
一、四拾八軒	和歌	一、三拾九軒	鉄砲町
一、五拾四軒	八幡町	一、拾六軒	新町
一、四拾九軒	川原町	一、壱軒	山王屋稼
一、拾三軒	八間町	一、六拾四軒	向町

〆三百五拾四軒

C 〈足輕小者家屋敷〉

一、拾八軒	日影町	一、廿壱軒	宗猷寺下町
一、五拾四軒	川原町	一、五拾四軒	新町
一、七拾八軒	向町	〆弐百廿五軒	

D 〈町屋家敷〉

一、百九拾四軒	壱ノ町	一、弐百廿五軒	弐ノ町
一、弐百卅五軒	三ノ町	一、六拾壱軒	片原町

〆七百拾五軒

E 〈散町家〉

一、九軒	裏町ノ内	一、拾四軒	錦橋ノ内
一、三軒	宗猷寺下	一、弍軒	素玄寺下
一、四軒	大雄寺下	一、弍軒	雲龍寺下
一、五軒	鉄砲町	一、六拾八軒	新町
一、三拾九軒	川原町	一、三軒	八間町
一、四軒	中橋爪	一、五拾壺軒	向町

ノ弍百四軒

町屋弍口九百廿一軒

F 〈覺〉

一、	飛州一國惣家数	四千軒計
一、	同惣人数男女共	七万人計
一、	百軒余侍家	同拾弍軒三ノ丸木戸ノ内在之
一、	七百三拾軒計	城下町屋此外侍町数不知

G 〈元禄五年壬申渡川上善吉覺書〉

一、家数百九拾四軒	一ノ町
一、同 弍百廿五軒	弍ノ町
一、同 弍百三拾五軒	三ノ町
一、家数六拾壺軒	片原町

ノ七百拾五軒

H 〈役家弍百廿三軒丸ニノ百五拾軒云々〉

一、六丁一ノ町	五十七間橋爪ヨリ春山前迄
一、六丁ト九間	弍ノ町春山ヨリ町端迄
一、五丁ト八間半	片原町
一、弍丁ト壺間	文右衛門坂下ヨリ鍛冶橋爪迄
一、弍丁ト十七間	海老坂下ヨリ紺屋平兵衛角迄

I 〈酒屋数八十八軒〉

	内	
	三拾壺軒	一ノ町
	四拾三軒	弍ノ町
	七軒	三ノ町
	五軒	古川町
	弍軒	高原町
一、石高		壺ノ町

- 一、桶数

同
- 一、石高千七百八十八石

貳ノ町
- 一、桶数千貳百七十六本

貳ノ町
- 一、石高

三ノ町
- 一、桶数

同

J 〈人別〉

- ノ七百二拾七人之内

貳百十七人

男

五百十人

女

一之町人別
- ノ千四百四拾人之内

六百八十人

男

七百六十人

女
- ノ

貳ノ町

既ニ上ノ山江引越人

拾三人

内貳人

男

十一人

女

一、馬 七疋 貳ノ町

一、牛首廿疋内貳疋牛三ノ町
- ノ二拾七疋

K 〈宗門改〉

- 一、

男女 千百九十六人内一ノ町

男 五百九十五人

女 六百壹人
- 一、同

九百五人内三ノ町

男 四百七十九人

女 四百廿六人
- 一、同

千四百壹人内貳ノ町

男 六百九十五人

女 七百六人
- 一、同

貳百五十五人内片原町

男 百廿六人

女 百九十二人
- ノ三千七百五拾七人

千八百九十五人

男

千八百六拾貳人

女

L 〈出雲守殿家来之覺〉

- 一、侍数

百廿三人

小姓知行高千石ヨリ百石迄
- 一、扶持方取

五拾四人

小姓侍ノ者其外役ニ

一、藝道茶堂役料理人	三百四人
一、足輕	百八十人
一、所々番人足輕	六十人
一、小人	三百人
✧惣人数千貳拾人	

A～Lの各項目について所見

A〈侍屋敷〉屋敷数が場所ごとに記してあるが、現在の地名にない箇所が多くあり、当時の通称地名を知る好資料である。法華寺が法花寺と記され、八軒町が八間町とある。

「大洞口」は大手にあたる地区で、現在の正雲寺坂を昇りつめた場所。金森将監屋敷もこの20軒に含まれる。

「文右衛門坂左右貳軒」は国家老金森兵庫ともう1軒、「宗猷寺下一軒」は金森左京屋敷である。

B〈扶持人屋敷〉扶持人は東山寺院下方の江名子川沿い、川原町、本町、大新町周辺に354軒あった。

C〈足輕小者屋敷〉春日町、島川原町や川原町、大新町、本町の縁辺に配置されていて、225軒あった。

D〈町屋家敷〉一之町が194、二之町が225、三之町が235、片原町が61軒で、合計715軒の家があった。

E〈散町家〉空町や江名子川沿い、川原町、大新町周辺に204軒あって、Dの三町と合わせると921軒（DとEとの合計は919軒）とある。A～Eをまとめると、武家屋敷が692軒、町家は921軒である。

F〈覺〉飛騨国の人口が記しており、家数は4千軒、人口は7万人と概数が計上してある。

G〈元禄五年壬申渡川上善吉覺書〉町年寄川上氏の提出した数値で、Dと同じ数字である。

H〈役家貳百廿三軒丸ニ✧百五拾軒云々〉見出しの意はわからないが、城下の中の距離について記してある。1丁は109.09¹⁰である。

I〈酒屋数八十八軒〉一之町～三之町合わせて81軒あった。古川には5軒、高原町（舟津か）には2軒あった。

J〈人別〉✧七百二十七人、一ノ町人別✧千四百四十人、貳ノ町上ノ山へ十三人引越、馬七疋貳ノ町とある。

K〈宗門改〉一之町が千百九十六人で男五百九十五人、女六百一人。三之町が九百五人で男四百七十九人、女四百二十六人。二之町が千四百一人で、男六百九十五人、女七百六人、片原町が二百五十五人で男百二十六人、女百九十二人。合計で三千七百五十七人で男千八百九十五人、女千八百六十二人とある。

L〈出雲守殿家来之覺〉千石～百石までが百二十三人、扶持方取五十四人、芸道茶道役料理人三百四人、その他足輕を入れて総数千二十人とある。

この在番記では、〈家来之覺〉の後段に石高別家臣明細が記され、役職も記入されている。他の在番記にも家臣明細が記述されている。

町名について

金森時代、商人町は壺番町、貳番町、参番町とされていた。しかし幕府直轄地時代になると法制的には壺之町村、貳之町村、三之町村となっている。

壺之町村は旧壺之町（旧壺番町）のほか鉄砲町以下10の町が付属、貳之町村は貳之町のほか川原町以下8の村が付属、三之町村は三之町のほか上向町以下5の町が付属して構成された。